

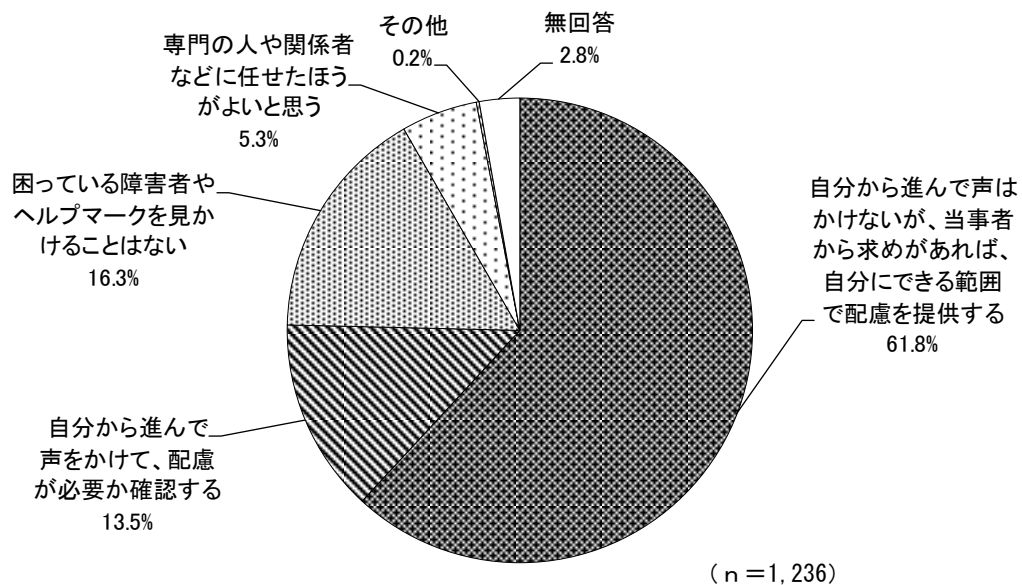
14 障害者差別の解消について

(1) ヘルプマークの認知度

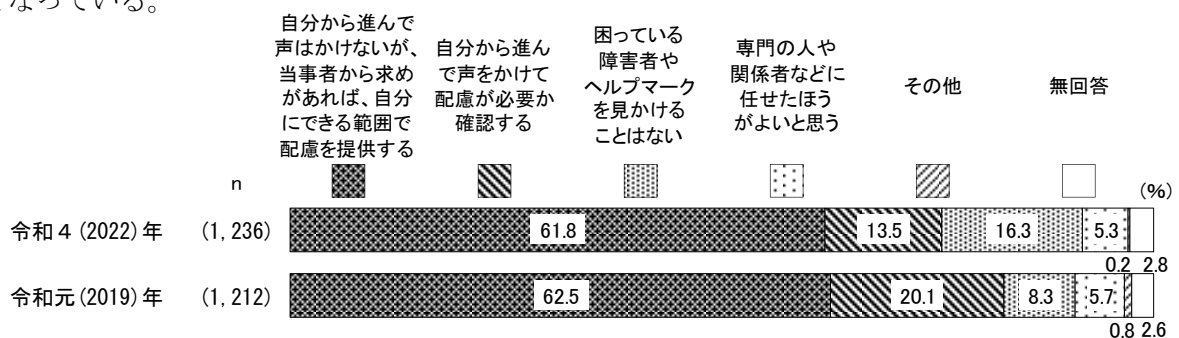
問40 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

1 自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する	61.8%
2 自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する	13.5
3 困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない	16.3
4 専門の人や関係者などに任せたいと思う	5.3
5 その他	0.2
(無回答)	2.8

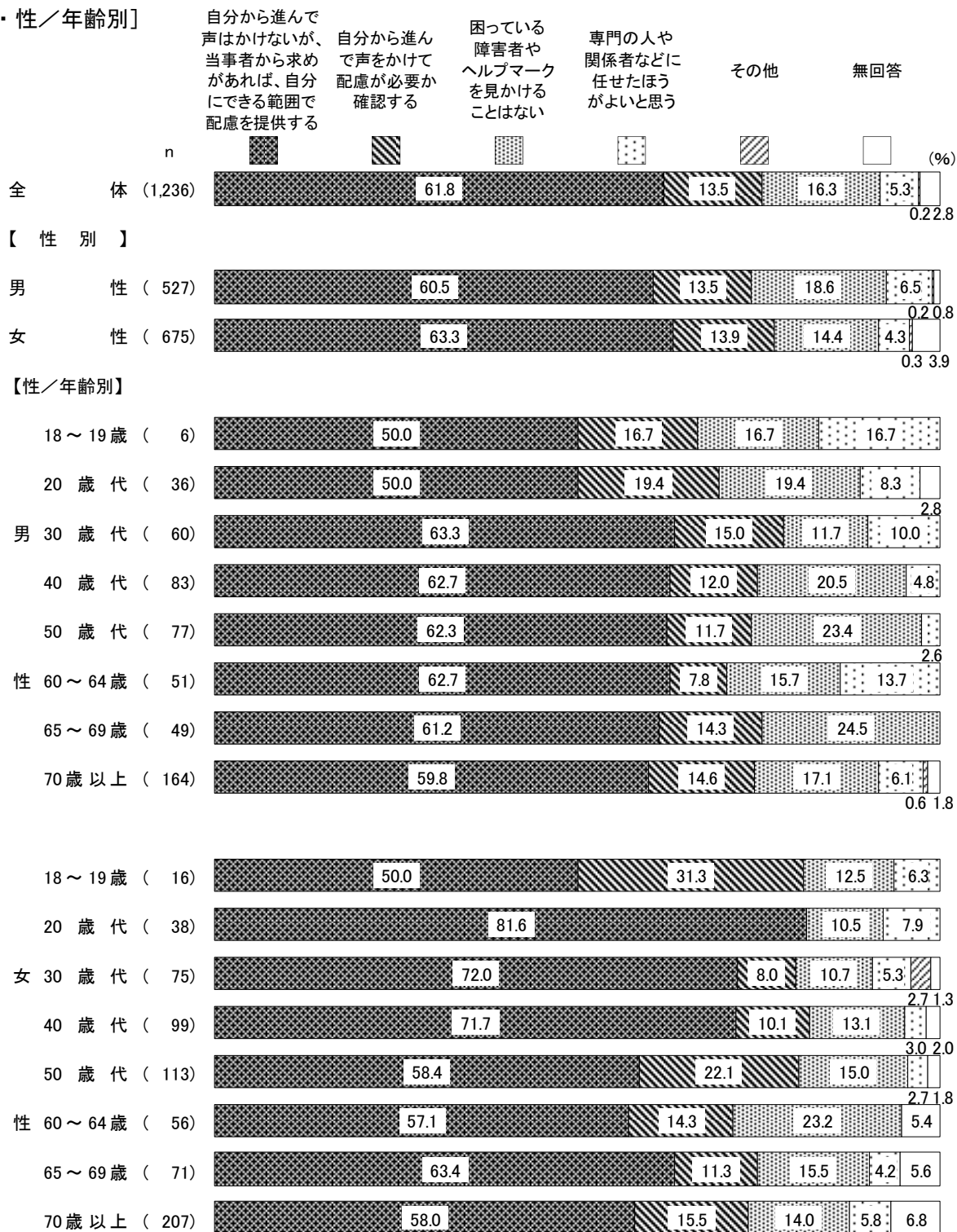


全体でみると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」(61.8%)が6割強、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」(16.3%)が1割台半ばを超え、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。



前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」が8.0ポイント増加している。

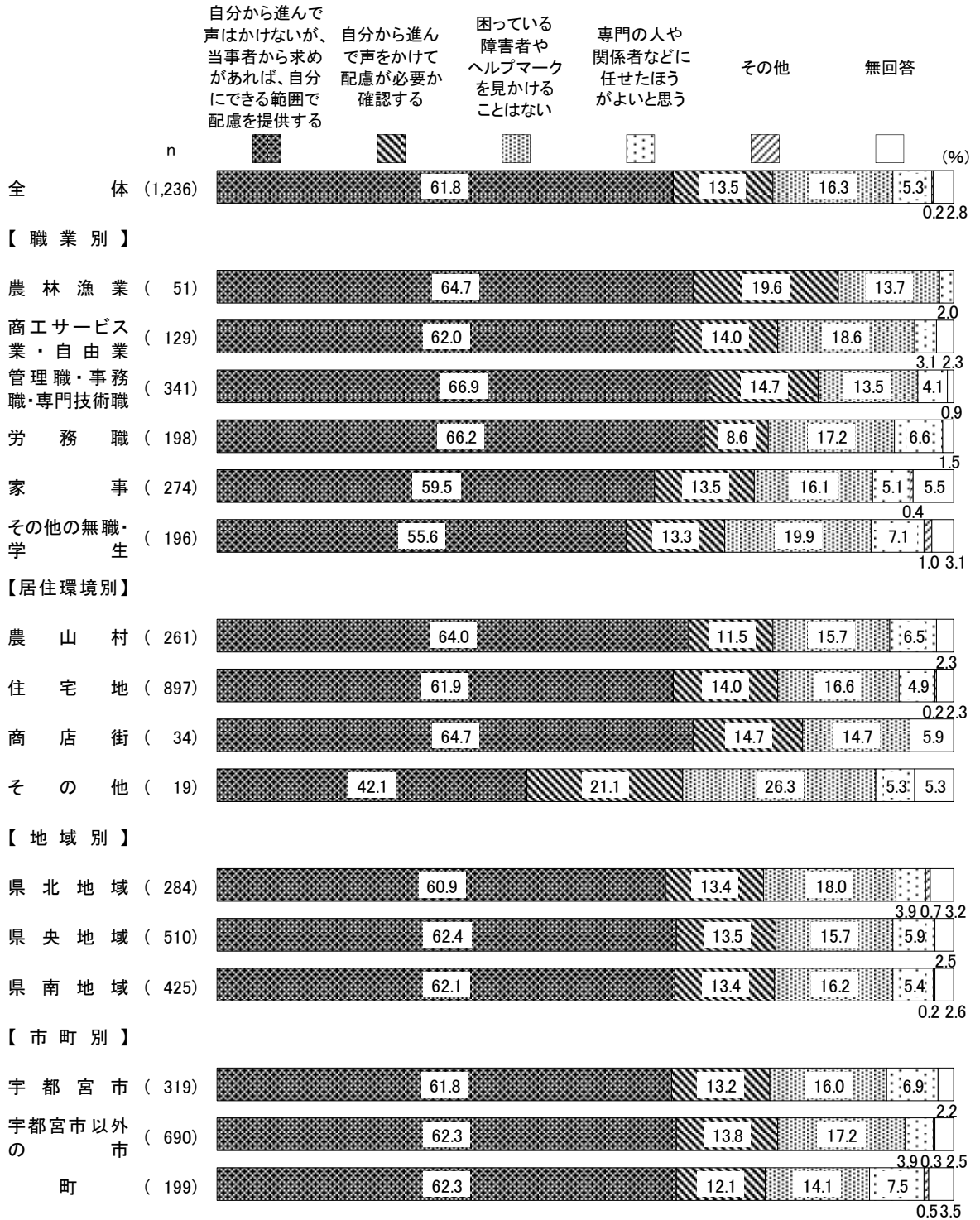
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分のできる範囲で配慮を提供する」では〈女性20歳代〉が81.6%、〈女性30歳代〉が72.0%、〈女性40歳代〉が71.7%と高くなっており、一方、〈男性20歳代〉が50.0%と低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



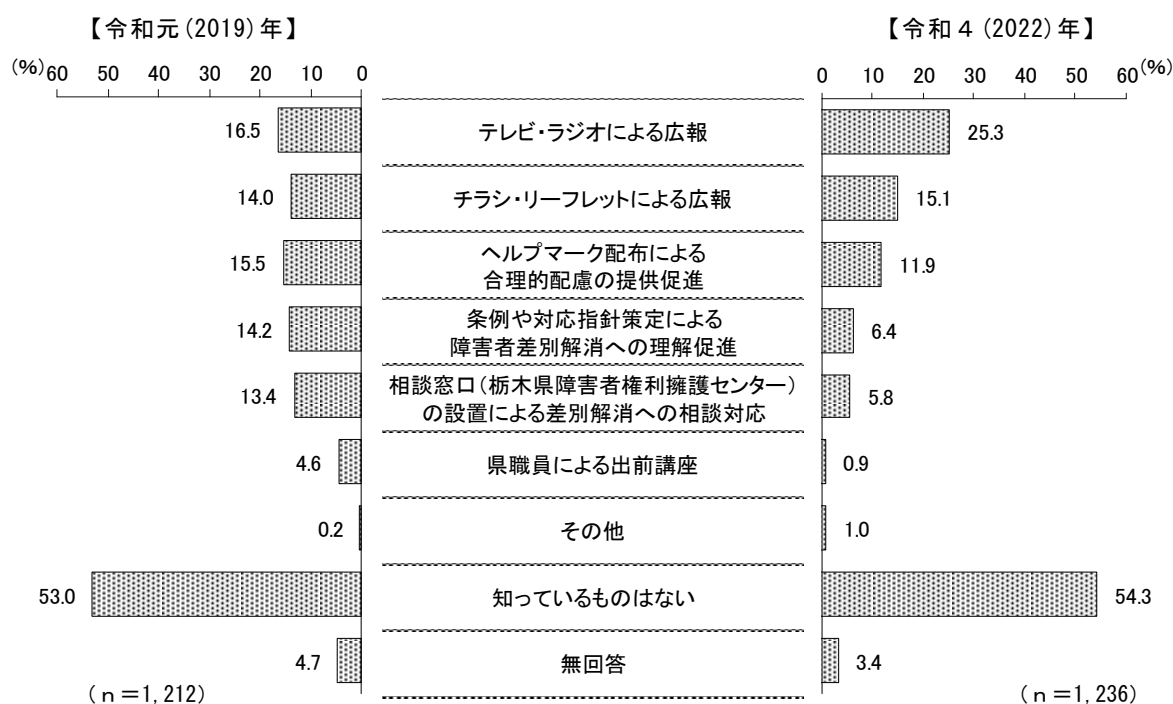
職業別・居住環境別・地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 県の取組に関する認知度

問41 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

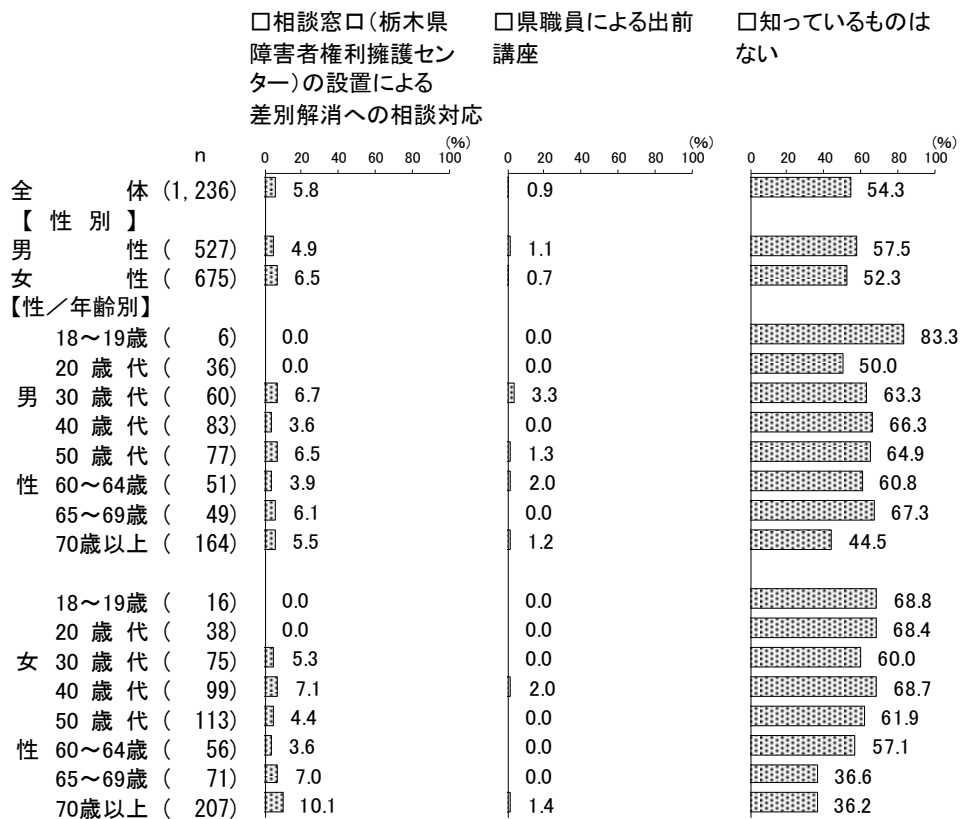
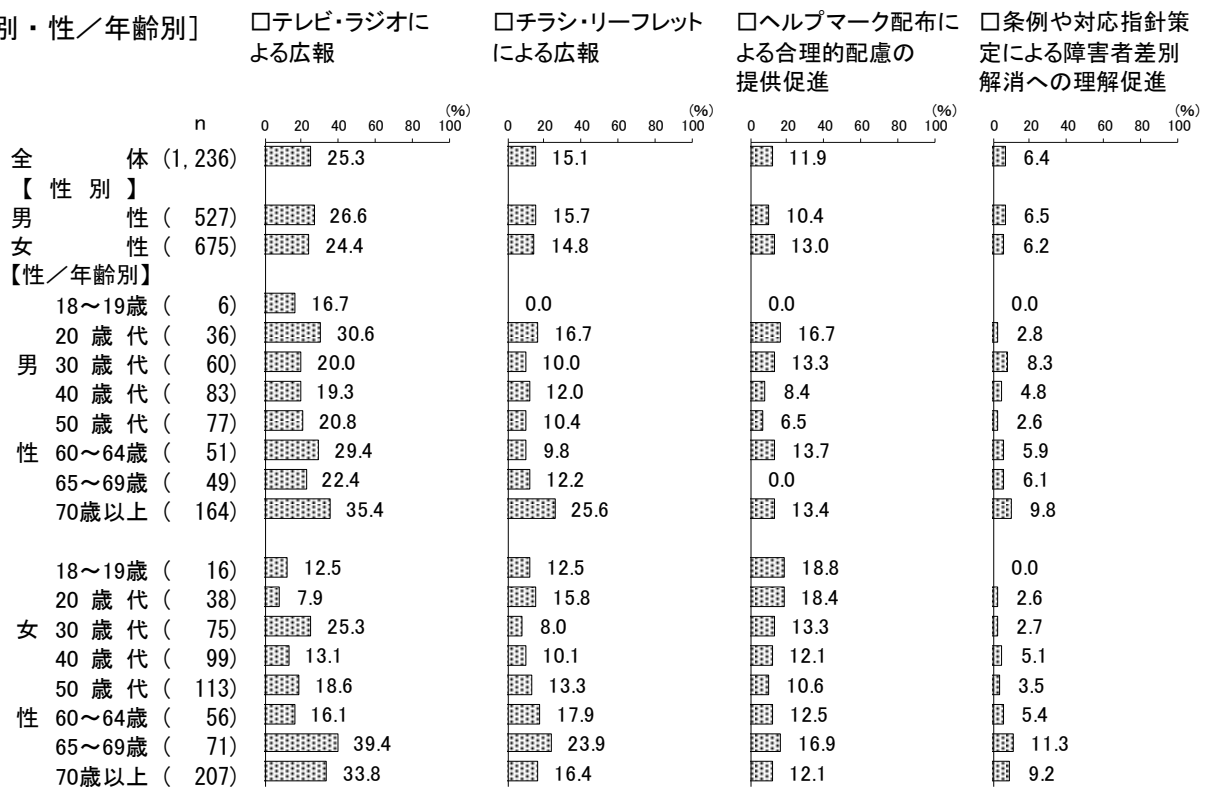
1	テレビ・ラジオによる広報	25.3%
2	ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進	11.9
3	条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進	6.4
4	チラシ・リーフレットによる広報	15.1
5	相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応	5.8
6	県職員による出前講座	0.9
7	その他	1.0
8	知っているものはない	54.3
	(無回答)	3.4



全体で見ると、「知っているものはない」（54.3%）が5割半ば近くで最も高くなっている。一方、「テレビ・ラジオによる広報」（25.3%）が2割台半ば、「チラシ・リーフレットによる広報」（15.1%）が1割台半ば、「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」（11.9%）が1割強となっている。

前回（令和元(2019)年）の調査結果と比較すると、「テレビ・ラジオによる広報」が8.8ポイント増加している。

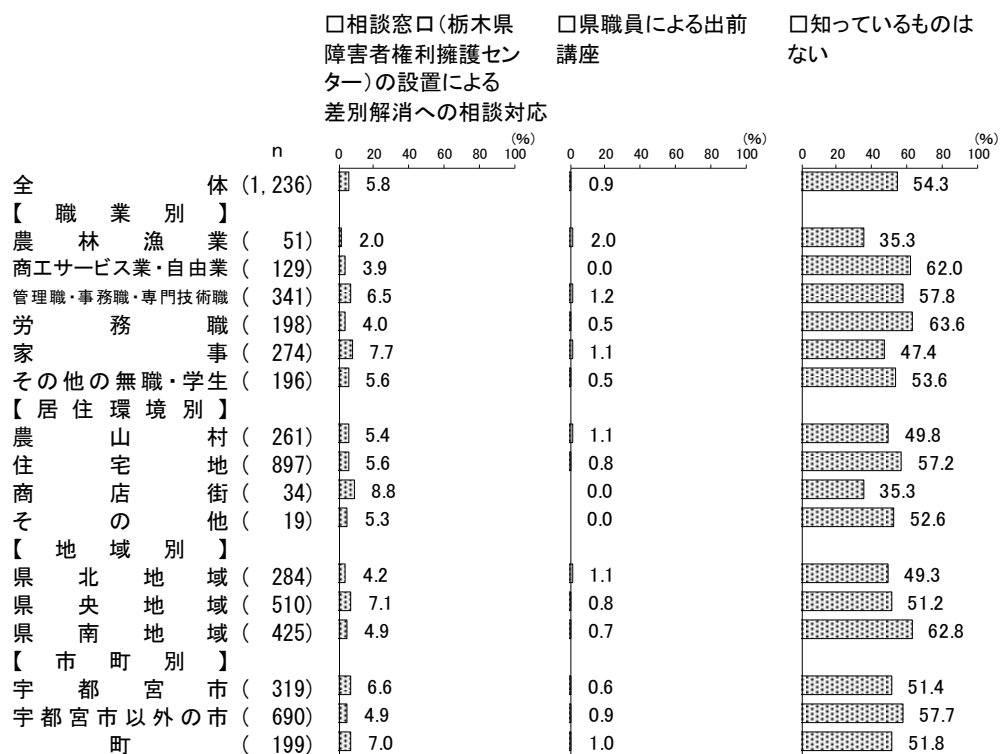
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「知っているものはない」では〈男性〉(57.5%)が〈女性〉(52.3%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知っているものはない」では〈女性40歳代〉が68.7%、〈女性20歳代〉が68.4%、〈男性65～69歳〉が67.3%、〈男性40歳代〉が66.3%、〈男性50歳代〉が64.9%と高くなっている。「テレビ・ラジオによる広報」では〈女性65～69歳〉が39.4%、〈男性70歳以上〉が35.4%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈男性70歳以上〉が25.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈農林漁業〉が39.2%と高くなっている。また、「チラシ・リーフレットによる広報」では〈農林漁業〉が29.4%と高くなっている。

居住環境別で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈商店街〉が35.3%と高くなっている。また、「チラシ・リーフレットによる広報」では〈商店街〉が32.4%と高くなっている。

地域別で見ると、「知っているものはない」では〈県南地域〉が62.8%と高くなっている。「テレビ・ラジオによる広報」では〈県北地域〉が30.6%と高くなっている。

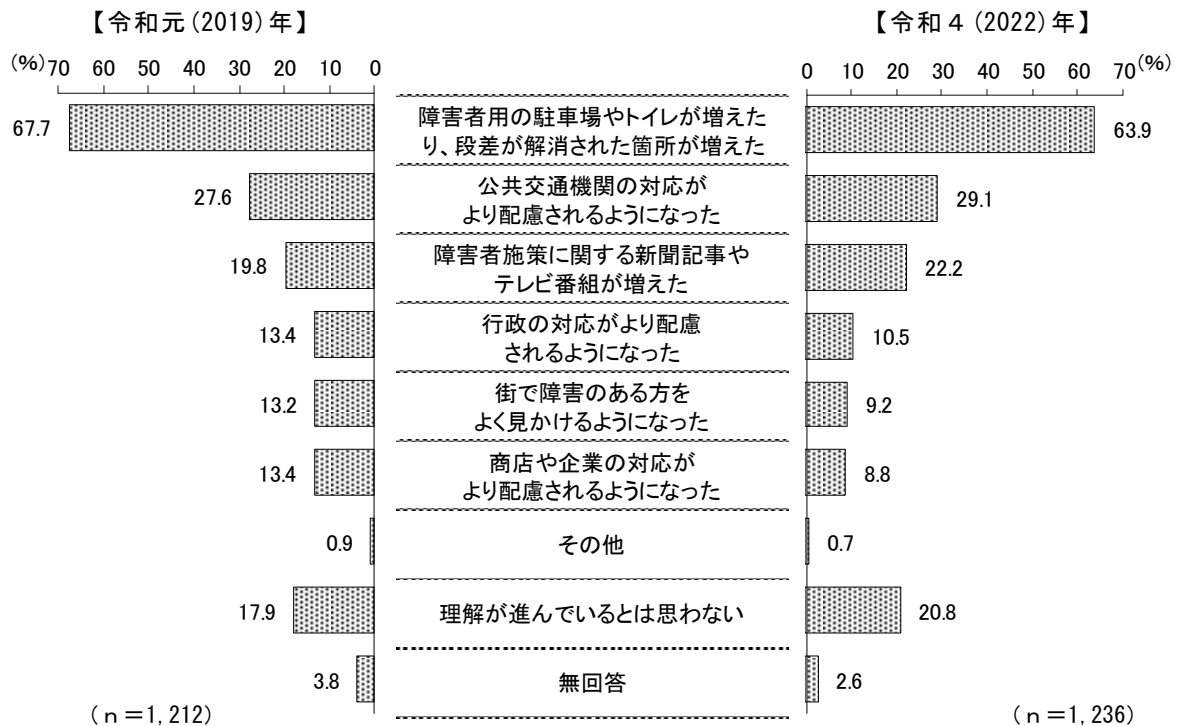
市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 障害者差別解消の理解

問42 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点はありませんか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた	63.9%
2	公共交通機関の対応がより配慮されるようになった	29.1
3	障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた	22.2
4	行政の対応がより配慮されるようになった	10.5
5	商店や企業の対応がより配慮されるようになった	8.8
6	街で障害のある方をよく見かけるようになった	9.2
7	その他	0.7
8	理解が進んでいるとは思わない	20.8
	(無回答)	2.6



全体でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」(63.9%)が6割台半ば近くで最も高くなっている。以下、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」(29.1%)、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」(22.2%)、「理解が進んでいるとは思わない」(20.8%)の順となっている。

前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

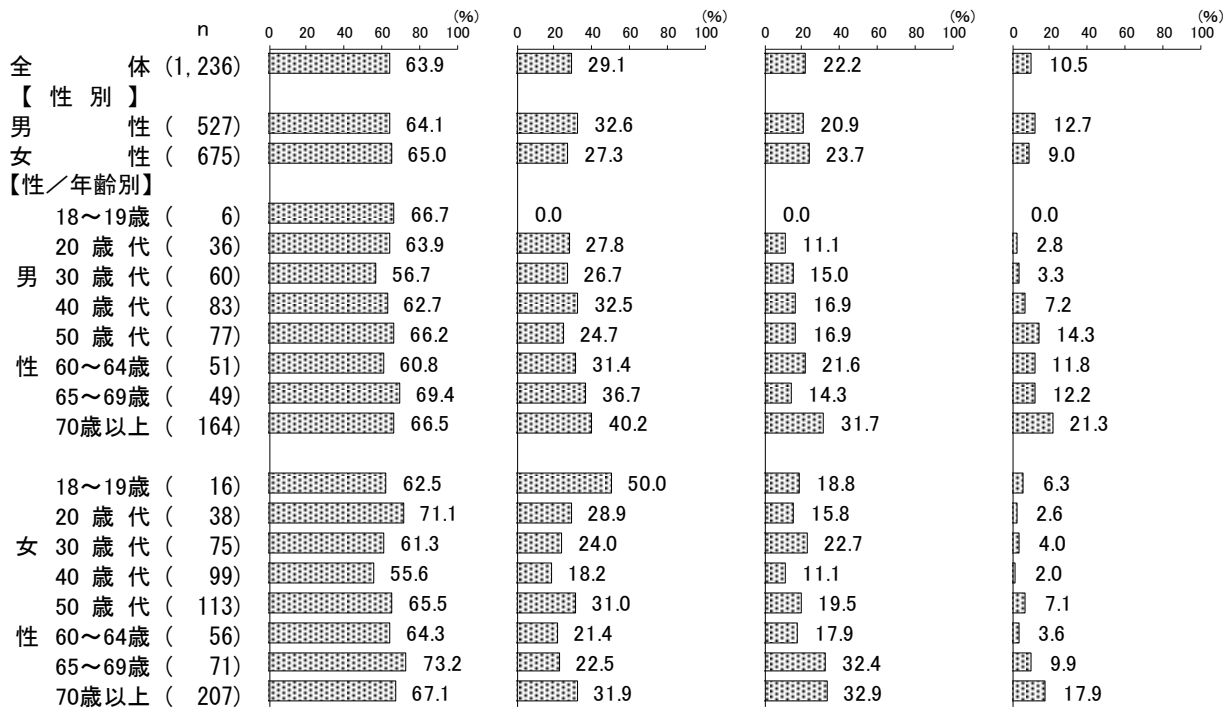
[性別・性／年齢別]

□障害者用の駐車場
やトイレが増えたり、
段差が解消された
箇所が増えた

□公共交通機関の対
応がより配慮される
ようになった

□障害者施策に関する
新聞記事やテレビ番組
が増えた

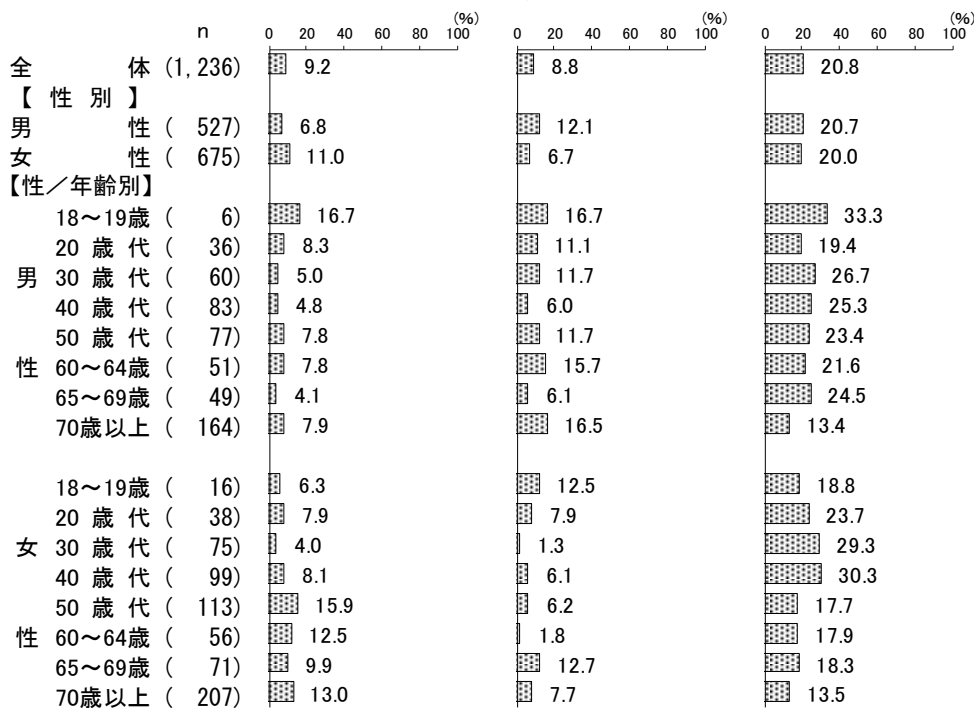
□行政の対応がより
配慮されるようにな
った



□街で障害のある方
をよく見かけるよう
になった

□商店や企業の対応
がより配慮される
ようになった

□理解が進んでいる
とは思わない

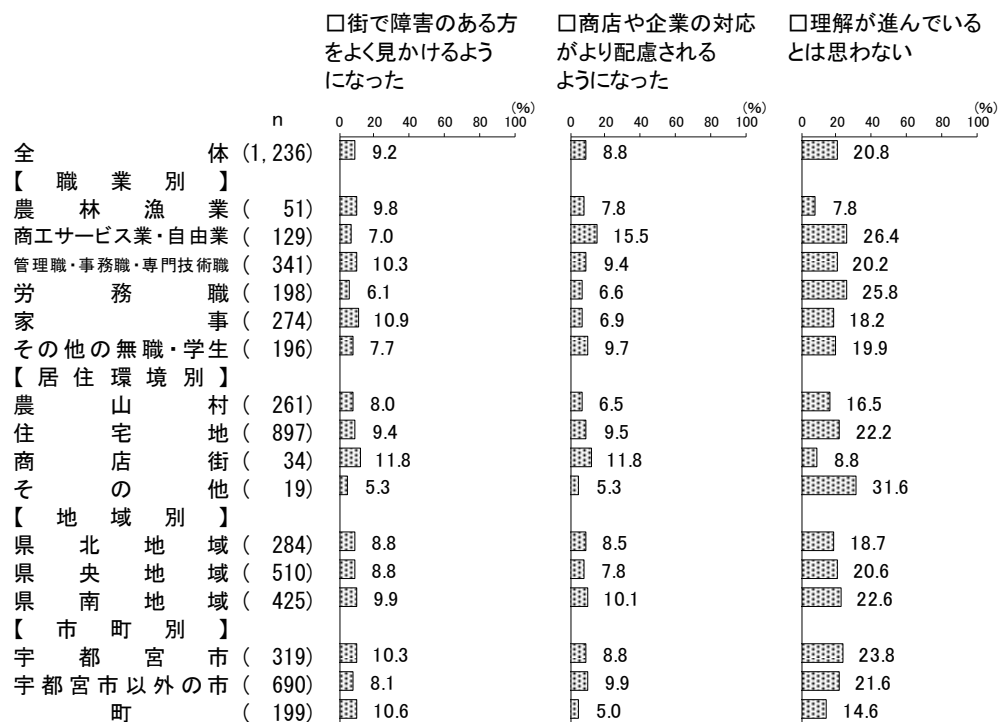
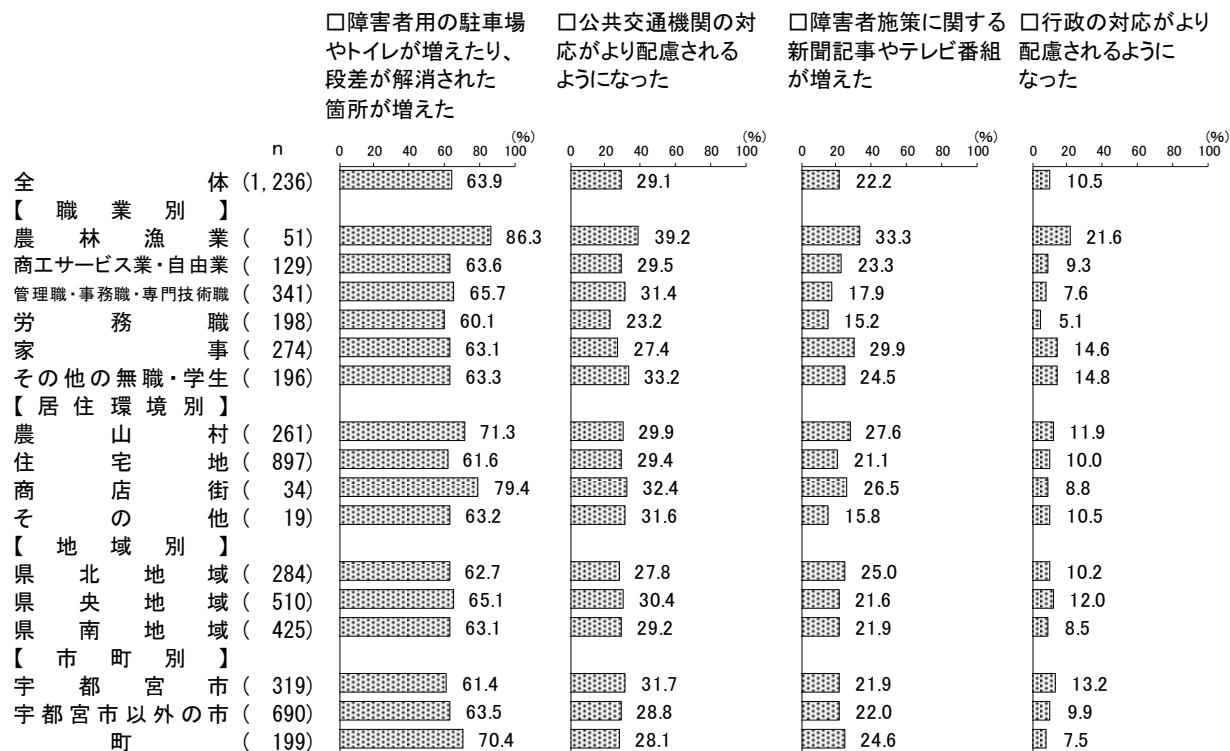


性別で見ると、「商店や企業の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(12.1%)が〈女性〉(6.7%)より5.4ポイント高くなっている。「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(32.6%)が〈女性〉(27.3%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が40.2%と高くなっており、一方、〈女性40歳代〉が18.2%と低くなっている。「障害者施策に関する

新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈女性70歳以上〉が32.9%、〈女性65～69歳〉が32.4%と高くなっており、一方、〈男性20歳代〉及び〈女性40歳代〉がそれぞれ11.1%と低くなっている。「行政の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が21.3%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別・市町別】



職業別で見ると、〈農林漁業〉が「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」は86.3%、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」は39.2%、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」は33.3%、「行政の対応がより配慮されるようになった」は21.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈商店街〉が79.4%、〈農山村〉が71.3%と高くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈農山村〉が27.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈町〉が70.4%と高くなっている。